

第39回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第39回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	平成30年3月26日（月）午後3時～
開催場所	河内長野市役所 802会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	0人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> （1）企画乗車券PRチラシについて （2）河内長野市地域公共交通計画（案）について （3）平成30年度地域公共交通会議予算（案）について （4）モックルコミュニティバスの新車導入について （5）平成30年度新規施策について （6）その他
会議内容	別紙会議内容のとおり

第39回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容（要旨）
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第39回河内長野市地域公共交通会議開会の案内 ➤ 各委員の出欠状況の報告
事務局	<p style="text-align: center;">【議題1】企画乗車券PRチラシについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 資料1（企画乗車券PRチラシ）について説明。 （各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり）
日野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設数が増えているのはいいが、利用者数のカウントはしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各施設へ協力する際に、利用者数のカウントするよう依頼をしている。ただし、正確には出ないケースもある。平成29年度の実績については、次回の交通会議の際に報告させて頂く。
事務局	<p style="text-align: center;">【議題2】河内長野市地域公共交通計画（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 資料2（河内長野市地域公共交通計画（案））について説明。 （各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり）
日野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ パブリックコメントの制度の運用について、なかなか周知がされていない。都市計画系の分野でもあることだが、どのように周知するかを検討する必要がある。他の地域でも地域公共交通会議で3回ぐらい説明されているが、意見が少ない。パブリックコメントは、そもそも公聴会等で声を出せる人の意見を聴くというよりは、サイレントマジョリティの意見を集めようという主旨。どのように周知していくか検討していくようにしないといけない。パブリックコメントを実施して1,000件くらい意見があって全てが反対だけだと計画通りとなると、主旨に合っていない制度になってしまう。誰でも気軽に声を出せる制度にして頂きたい。残念だったのが楠ヶ丘など、賛成でも意見を出せるようにしてほしい。事務局はそのような仕組みを考えてほしい。今回、意見があったのは1人だが、意見が多い時に出てきた意見全部に役所が1件ずつ答えるのは可笑しい。本来は意見の中身を見て分類して、計画の理念に関するものとしてこれだけ意見を頂いて、このように対応したいとか、直接関係ないのでこのように対応するといった集約した形にしないとパブリックコメントの対応が難しくなる。パブリックコメントをどのように運用するのか検討することと、市民のみなさんにどのようにお知らせするかを検討して頂きたい。制度と内容について、この計画をどのように考えるか重要なところである。

仲村委員	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 質問1で道路運送法等で難しいというのはわかるが「今後の参考に」というのはどの程度参考にするのか。2番の方も「要望があったからバス事業者さんに届けさせて頂く」ということだが、市としては一切関知しないということか。何らかの形でバス会社さんへフォローされるのか。ある程度みんなに知らせる部分も必要ではないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ パブリックコメントの中では「参考とさせていただきます」という記載の仕方とさせていただきますと思うが、色々な課題がクリアしていったら、実現可能なものから充実を図っていきたい。頂いたご意見について、交通事業者さんには従前からお伝えして共有している。今日も会議に来ていただいているので、今後とも取り組めることは前向きに取り組んでいきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 議題2について、承認された。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【議題3】平成30年度地域公共交通会議予算（案）について</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 資料3（平成30年度地域公共交通会議予算（案））について説明。 （各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり）
日野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ お金がかからないのは良いことかもしれないが、計画の中でこの2つだけ具体的なサービスがあるので予算があるのだと思うが、他も評価指標があるがタダで良くなるということになるのか。公共交通をこれから先どうしていくのか、ということで計画を立てていて、何らかの施策を実行するためには何らかの費用が必要になるのではないかと。たくさんの項目について、具体的にどうしていくのか、何らかのお金が必要にならないのか気になる。指標を設けて改善されることを目標として設定しているにも関わらず、お金をかけないとなると合理性に欠けるのではないかと。実施していくための費用を名目だけでも挙げられないのか気になることである。事業1と2だけが進んでいくのか、他の指標は来年度以降なのか、補足して頂きたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 予算案については昨年よりは小さくなって、見方によっては実績主義で、今あるものだけを載せたように見えてしまうが、他の計画にあるものに繋げていけないか考えている。今年度初めて包括予算を導入して、厳しい予算の中でも公共交通は大切ということで、議会でもご意見があったけれども、赤字補填ではなく投資ということで、担当課でも予算の確保に繋げていきたい。
日野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 平成33年度を目標としているので今年度でなくてもいいが、なかなか難しいところ。指標がこうなるということだけでなく、市民の生活が良くなるのか、総合計画とか都市計画マスタープランで目指しているまちづくりの方向に対

	<p>してプラスになるということ具体的に現すのがこれだとすると、投資として必要ではないか。そう考えると、何らかの予算化をしておいて、今年度はやらなかったという風にできるとよい。ただ、予算なので余るとまた減らされるといった面も役所だと考えられる。できるだけ計画の進捗に向けて、この項目に向けては何かをするので、それに対しては何年度に予算をつけましょうという理解で良いと思う。計画と実施に関わる費用の対応方針を、予算がない中でお金を取ってくるのは大変だと認識しているが、市民からすると計画はあるのにお金がないといったことにならないようにしてほしい。</p> <p>➤ 議題3について、承認された。</p> <p>【議題4】モックルコミュニティバスの新車導入について</p> <p>➤ 資料4（モックルコミュニティバスの新車導入）について説明。 （各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり）</p> <p>➤ モックルコミュニティバスのデザインについて決定 （A案 12票、B案 6票→結果 A案で決定） ※会長は可否同数の時のみ投票に参加するので、今回は投票していない。</p>
事務局	
坂本委員 (南海バス労組)	<p>➤ バスの社内放送について、小学生とか市民参加でという話があったが、事故防止の観点から小学生の声で放送できないか。</p>
事務局	
甲斐委員 (市民公募)	<p>➤ 今までよりも大きい車両になっているが、それはなぜか。3台ということだが、今は何台か。</p>
事務局	
仲村委員 (市民公募)	<p>➤ 予備の分は北行きか南行きか。それともローテーションで動いているのか。</p>
事務局	<p>➤ どれが北行き、南行きと決まっているのではなく、輪番で運行している。</p>

<p>榎井会長</p>	<p>➤ これまでも車両不備等があったので、今後も予備車両があれば安心して運行できる。</p>
<p>事務局</p>	<p>【議題5】平成30年度新規施策について</p> <p>➤ 資料5（平成30年度新規施策）について説明。 （各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり）</p>
<p>若林委員 (商工会) 事務局</p>	<p>➤ お年寄りへの広報についてはどのように考えられているか。</p> <p>➤ 基本は市の広報やHPは当たり前のところだが、市内の75歳以上の方を対象にしているため、その方々に確実に届くようにと考えている。公民館やスーパーなど目につくところにチラシ等を置かせて頂いて、制度を理解して使って頂けるように、丁寧に周知していきたい。</p>
<p>若林委員 (商工会)</p>	<p>➤ 母がバスやタクシーを使っているが、HPはまず見ないし、広報は字が小さいので見ない。近所の方から聞いたりするので、細やかにして頂きたい。</p>
<p>上野委員 (観光協会) 事務局</p>	<p>➤ この配布は年に1回か。</p> <p>➤ 1年に1回配布する。販売するものではない。割引券をお送りして、タクシーを降りる時に渡してもらう。</p>
<p>山田委員 (老人クラブ) 事務局</p>	<p>➤ 高齢者のところへ届けてもらえるということか。</p> <p>➤ 細かい制度設計については、これから考えていく。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>➤ 良い取り組みだが、公共交通会議とどのように関係しているのか。トップダウンで決まったことかもしれないが、評価は公共交通会議でするのかもしれないが、予算にも事業にも入っていないものを評価することに違和感がある。15の事業のどれに該当するのか。5番の「高齢者が利用しやすい公共交通環境の整備による外出の支援」があるが、評価指標はバスの利用者数となっているため、どれが該当するのかがわかりにくい。高齢者の暮らしやすさの満足度でもいいが、外出を狙っているのであれば外出頻度でもいいかもしれない。計画は了承されているが、部分的には追加等があってもいいのではないか。トップダウンで来ていると思うが、公共交通会議に入れて頂いてもいいのではないか。予算も公共交通としてこれだけ取っている、となるとアピールにもなっていないのではないか。公共交通に対する市としてのスタンスが見えていいのではないか。せっかくなので、どこかが効果評価をしないといけない。そうすると、計画の</p>

	一部追加などで、この中で評価していけないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ この取り組みは、計画の54頁の5番の高齢者の利用促進、外出支援に該当する。今回はタクシーでスタートするが、我々としてはバスでもやっていきたい。ただ、バスは運転手さんの労務負担があり、安全運行に支障をきたす可能性があって難しいが、今後両方取り組んでいきたいと思っている。社会実験としての効果検証をやっていく際は、この会議の中でデータを出して検証していきたい。どのような効果があるのか、どのような展開があるのかを考えて頂きたい。
日野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ この施策の予算は別ルートでされているが、交通会議で効果検証もさせていただけるのであれば、交通会議の事業の1つとして認めていただけたら、その方がいいのではないかと。予算も赤字の分の補填というのがあったが、赤字がなくなってきたら予算が小さくなって、この会議も解散ではなく、こうした投資予算も入れると、投資をされていることがよくわかる。予算の問題や指標についても、指標は外出率等、大きすぎるから入れてないのだと思うが、計画の中に恒常的に無くてもいいが、プロジェクトやりますよというのがどこかにあって、その1つがこれという形でもいい。こうした取り組みができるようになった時に、新たなプロジェクトをやる場合は効果指標を入れられるようにして頂けるとよいのではないかと。柔軟に対応できる仕組みを入れて頂きたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 効果検証はやっていくが、今の事業の指標にこの項目は無いが、この中でお話しして頂きたい。予算については今後どうしていくかを検討して行って、次に反映していきたい。
榊井会長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ お孫さんと乗っていったとか病院へ行ったとか、使われ方を調べることで答えを出せて、次の施策に反映していければいいのではないかと。予算の載せ方によって、この公共交通会議の重みも出てくるので、色々相談しながら進めていきたい。
	<p>【議題5】 その他案件について</p>
①～③ 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ その他の案件について説明（④は口頭説明のため資料なし） <ul style="list-style-type: none"> ①交通対策特別委員会からの提言について（報告） ②楠ヶ丘地域の取組みについて（進捗報告） ③桐ヶ丘地域の取組みについて（進捗報告） ④南海バスから情報提供 ⑤大阪市立大学大学院の研究論文発表
④吉岡氏 (南海バス)	
⑤高橋氏 (市大院)	
日野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学会でも公共交通の利用に関して、何を以て評価するのか議論されている。

黒字にならないものをどのように評価するのか。今言われているのは、外出機会が増えて移動機会が増えると、社会保険負担が減るだろう、と言われている。その推計が非常に難しい。土木系だけでなく経済系でもやられているが、中々すぐには出ない。「移動が増えることによる」というのが絶対条件。移動の増え方によって、寄り道するなど、女性は1人でも寄り道できるが、男性は1人だと寄り道ができない。それが同伴だと寄り道が増えて、消費が結構増える。微々たる物かもしれないが、まち全体の消費量が増えて、それが賑わいの一部になるだろうということ。おそらく、そのような方向でまちづくりをされている。健康や賑わいなど総合計画等と言われているが、具体的にどうするかは出てこない。それを公共交通からこういったことが言えるのではないかと提示している。赤字負担ではなく、お金を投資することでこのような良いことがあるじゃないですかと公共交通を位置づけられたらいいのではないかと。

もう1つは交通対策特別委員会からの提言でもあったが、デマンド交通がよく話題になっている。私自身は成功した例を聞いたことがない。某大学のシステムを入れたけど1年で乗らなくなってしまったり、お抱えハイヤーになってしまっている。堺市等で始められているが、情報を出して頂いて、ここで議論したい。上手くいっている例があるかもしれないので、そのような情報は運輸局さんから提示して頂くなどして頂きたい。他の事例も見て、我々も勉強し、相互に学習して良いものをやりましょうということをお願いしたい。

上野会長
(観光協会)

➤ 天野山の落慶法要が3月31日から開催される。会場は駐車場が少ないのでバスかタクシーを使ってほしい。

事務局

➤ 次回の会議開催は、平成30年5月～6月を予定している。

榊井会長

➤ 本日は、年度末のお忙しい中ありがとうございました。

以上

第39回河内長野市地域公共交通会議 委員名簿

	氏名	所属・役職	出欠状況
会長	榊井 繁春	河内長野市 副市長	
副会長	日野 泰雄	大阪市立大学 名誉教授	
委員	伊勢 昇	和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授	欠席
委員	湯川 義彦	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 総務企画部門 首席運輸企画専門官	木下専門官
委員	田内 文雄	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 輸送部門 首席運輸企画専門官	欠席
委員	植澤 徹也	大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課 公共交通計画グループ 課長補佐	
委員	白井 康之	大阪府 富田林土木事務所 地域防災担当参事兼地域支援・企画課長	欠席
委員	井元 正和	大阪府 河内長野警察署 交通課 課長代理	欠席
委員	秋元 克之	南海バス株式会社 企画部 企画課長	
委員	松内 祐二	南海バス株式会社 営業部次長 兼 営業課長	木下課長代理
委員	坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	
監事	林 邦昭	大阪第一交通株式会社 河内長野営業所長	
委員	小谷 和也	近鉄タクシー株式会社 業務部長	
委員	小出 泰弘	南海電気鉄道株式会社 鉄道営業本部 統括部 課長	西村課長補佐
委員	森本 治実	近畿日本鉄道株式会社 総合企画本部 計画部 課長兼鉄道本部 企画統括部 営業企画部 課長	森内主査
委員	山田 昭儀	河内長野市老人クラブ連合会 会長	
委員	上野 修二	河内長野市観光協会 会長	
委員	若林 勝美	河内長野市商工会理事	
委員	仲村 義郎	市民公募	
監事	甲斐 由紀	市民公募	
委員	洞淵 元秀	河内長野市保健福祉部長	欠席
委員	太口 智裕	河内長野市環境経済部長	
委員	梅谷 武博	河内長野市都市づくり部長	
委員	小西 昌敏	河内長野市総務部長	
委員	小林 章良	河内長野市総合政策部長	